

山田高校生が聞く 9人が一般質問

① 災害公営住宅の空室 有効活用を考えは (佐々木菜祐さん)

問 災害公営住宅の空室を有効活用する考えは。

答 災害公営住宅は、被災者の住まいの確保のために整備され、その目的に沿った管理運営が求められます。空き室については、まだ申し込んでいない方や家を建てる方針を変えて災害公営住宅へ入居しようとする方へ備え、一定の戸数を確保しておかなければならないと考えています。

今後は、被災者の災害公営住宅への入居希望が明らかに無くなった後に、被災者以外で住宅に困っている人に対しても募集を行う予定で、空き室が出ないよう取り組んでいくところです。

問 空き室を利用し、地域コミュニティの形成を図れないか。

答 空き室を地域の交流場所として利用することは、整備した目的から考えて、今のところ難しいと思います。ただし、先ほど述べた、被災者以外で住宅にお困りの方へ募集を行った後に、なお空き室がある場合は、ご指摘のとおり柔軟に対応していきますことが必要だと認識しています。

ふるさと探究 高校生議会

山田高校（及川研一校長、生徒111人）により初開催された「ふるさと探究高校生議会」。町議会と同様の形式で代表生徒9人による一般質問が行われ、町へ質問・提言を行いました。これは、同高の「ふるさと探究」授業の一環で行われたもので、生徒らは質問を通して町の事業や考えに理解を深めていました。

② 医師不足解消へ 町の取り組みは (遠藤香乃さん)

問 沿岸部の医師不足解消へ向け、県と共同し、岩手医科大学に「沿岸枠」「沿岸特別推薦入試」の実現を働きかけられないか。

答 県の支援策の一つに、県内の医療機関で一定期間勤務した場合に返還が免除される奨学金制度があります。2021年度からは、この奨学金の義務履行が始まる奨学生養成医師に対し、県北・沿岸地域での勤務を義務付けることから、数年後には、

③ 観光振興 誘客に向けた策を (阿部竜成さん)

問 シーカヤック体験について、プロのインストラクター不足に対する対応策は。

医師不足と地域偏在の解消が進むものと認識しています。ご提言については、慢性的な医師不足は県全体の大きな課題のため、関係機関など多くの理解がなければ、創設の働きかけはできないものと考えています。

問 医療従事者の勤務環境向上のために託児所などを設けるべきでは。

答 県立山田病院規模の院内に保育所を設置し、24時間対応を行うことは、費用対効果の面からも難しいものと考えられます。

答 町でシーカヤック指導者養成研修会を開催しており、これまで5人が資格を取得しています。引き続き、インストラクター養成に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

問 民泊を活用し、地域住民と観光客が交流できるような機会を増やす考えは。

答 町では、体験観光の充実、推進に取り組んでいますが、他の自治体と比べて宿泊施設が少なく、宿泊を伴う観光客の誘客が課題となっているため、民泊は有効な手段と考えています。

ふるさと探究とは？

①本年度開講した科目

古里である山田町に関する学びを通して主体性、思考力、判断力を育むことを目的に、本年度開講した山田高校独自の科目。



②これまでの学び

- ▶ 復興状況の確認 ▶ 教育や産業課題の学習
- ▶ 議会傍聴——など

③高校生議会は学びの集大成

これまでの学びから生まれた課題意識をもとに校外調査を実施。同じ課題意識を持つ生徒同士が町への質問・提言を考え、代表者が一般質問を行った。このことは、選挙権年齢が引き下げられた中、必要とされる政治参加意識や政治的教養を身につけることにつながった。

「これからの町の発展のために頑張りたい」と意欲を示した佐々木菜祐さん





考えた課題について堂々と質問、提言する山田高生徒

④ 防潮堤への高さ表示 防災無線に特色を (福土優さん)

問 防潮堤に高さ表示をするべきでは。

答 津波注意報や津波警報が発表された場合は、予想される津波の高さにかかわらず、直ちに海岸から離れ、高台に避難することが重要なため、津波の高さとの比較を目的とした高さ表示をする考えはありません。

なお、防潮堤完成時には、施設の高さや延長などの概要を記した表示板は設置されます。

問 防災無線のチャイムについて、町にゆかりのある音楽などに変えることはできないか。

答 町民の皆さまの意見をいただきながら実施を検討します。

⑤ 脳卒中予防のための 減塩の取り組み状況 (佐々木那緒登さん)

問 脳卒中予防に向けた町の減塩への取り組みは。

答 各種教室などを通じて、減塩の普及活動に取り組んでいきます。引き続き、町民の減塩意識を高める施策を展開していきたくと考えています。

⑥ 企業誘致の状況と 今後の取り組みは (佐々木寛斗さん)

問 企業誘致の状況や今後の取り組みは。

答 工業用地の整備や固定資産

税の減免などの優遇措置により、平成元年以降、11の企業が新たに操業を開始し、町内の雇用確保につながっています。今後は、企業誘致やすでに立地している企業の増設を支援し、雇用拡大を目指す一方、町内事業所の労働力不足にも配慮しながら取り組んでいきます。

⑦ ごみのない町 山田を目指して (野田明正さん)

問 海水浴場などにごみが多く落ちているが、町としての対策は。また、ごみ削減のために高校生に取り組んでほしいことは。

答 町では、町民や事業者など



「高校生の皆さんの力が山田には必要。大変良い議会でした」と、昆議長が講評しました。

⑧ 全国的な保育士不足 町の現状は (佐々木アンナさん)

問 全国的に保育士不足が問題となっているが、本町の現状は。また、保育士の負担軽減と労働環境改善のための取り組みは。

答 町内各保育所とも入所児童数に応じた保育士の配置基準を満たし、現在本町に待機児童はいないことから、保育士が不足している状況にはないと認識しています。2点目については、国の制度や町単独事業により、事務の効率化を図る保育業務支援システムの導入や事故防止対策のための防犯カメラの設置費

用補助、各保育所で行われる地域活動への支援を行っています。

⑨ 町の歴史 学ぶ機会創設を (山崎智子さん)

問 山田の歴史について知る機会をどのように設けているか。また、歴史に関する出前講座を行う考えは。

答 山田の歴史について知る機会として、町民を対象とした歴史講演会や講座を行っています。2点目については、要望に応じて町の歴史に関する出前講座を行っており、また、発掘された遺跡資料などの貸し出しも行っています。

質問を終えて

観光地である山田町をより多くの人に知ってもらいたいという気持ちで質問しました。ふるさと探究の授業を受けて、知らないことが多いと気付きました。後輩たちにも、必要な授業だと思っています。

(阿部竜成さん)



阿部竜成さん



佐々木アンナさん

緊張しましたが、参加できて嬉しかったです。将来自分に関わってくることにについて調べて質問しました。支援活動があることを初めて知りました。この授業で勉強したことは、大変貴重な経験になったと思います。

(佐々木アンナさん)